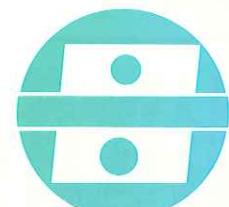


第12号

みらい子育てネット だより



- 会長挨拶 ●年頭所感 ●平成15年度全国大会報告
- ブロック別研修会報告 ●活動報告
- 関係団体紹介 ●トピックス ●平成16年度予定



発行

全国地域活動連絡協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1-10F

財團法人 児童健全育成推進財團内

TEL 03-3797-8183~4 FAX 03-3486-5142

<http://www.hahaoya-club.ne.jp/>

全国で実施いたしました「遊び場安全点検」にご協力いただきありがとうございました。

※※表紙の写真を募集しています。日々の活動や催事など、みらい子育てネット事務局までどしどしご応募ください。※※
各ホームページアドレス ●厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/> ●財團法人 児童健全育成推進財團 <http://www.jidoukan.or.jp/index.html>

会長挨拶

一〇〇四年 年頭にあたり



全国地域活動連絡協議会
会長 阿部恭子

皆様、新年明けましておめでとうございます。まずもって、本年も皆様にとりまして幸多き年となりますことを、心からお祈り申し上げます。



厚生労働省
雇用均等・児童家庭局
局長 伍藤 忠春

さて、昨年は、皆様に御協力をいただき実施した、「遊び場安全点検週間」における全国一斉点検活動が大きな反響を呼ぶなど、私どもの活動にも大きな飛躍が見られました。これも、皆様の努力と研鑽を積む必要があろうかと思

着し、子どもが健やかに育つ地域づくりに努めていただきたいと思います。
また、本年は、国・地方自治体・企業等が一体となって次世代の育成という観点に立ち、それぞれが行動計画を策定することとなります。この計画の策定に当たって、地域で活発な活動をする母親クラブの皆さまが積極的に参画され、子どもたちや子育て家庭の声を反映した計画が策定されることを望ましいと考えております。

最後に、母親クラブの皆さま方の日頃の活動に感謝申しあげますとともに、本年も皆さまにとつて良い年となりますようお祈り申しあげます。

さらに、次世代育成支援対策の一層の充実を図るため来る通常国会に、児童手当制度や育児休業制度の見直し、児童福祉法の改正など、所要の法律を提出すべく準備を進めているところです。

母親クラブは、子どもの幸せを第一に考え、児童館等を拠点とした親子及び世代間交流や子育て支援活動、遊び場の安全の確保など、子どもたちの健全育成に寄与する地域活動団体として、全国各地で大きな役割を果たして頂いております。特に、昨年七月の第二日曜日から一週間を「遊び場安全点検週間」として実施された公園、児童遊園などの遊び場の遊具等の安全点検は、子どもたちの遊び場での事故防止・安全確保を図る上で大きな成果がありました。今後とも地域に密

全国大会報告

一〇〇四年 年頭所感



奇しくも、本年は「みらい子育てネット三十周年の節目の年です。人に例えるならば「而立」。これまでの基礎を生かし、主体的な活動に磨きをかけるべき年です。国や地方自治体をはじめ、子どもに関わるあらゆる人たちが連携し、社会全体で子育てを支えるため、私たちが地域の中心に立つて、活動を進めていく必要があると思います。皆様のますますの御支援と御協力をお願ひ申し上げます。」

【大会第一回】
オープニングの地元保育園児による「ひよっこりひようたん島」の可愛らしい遊戯と、女性コーラスの歌声に迎えられ、緊張していた心が和らきました。開会式での関係各位の挨拶に続き、表彰式・行政説明・講演・フォーラムが行われました。

行政説明では、厚生労働省の鈴木専門官により少子化や虐待など児童を取り巻く現状や、次世代育成支援対策推進法案の概要や、児童福祉法の一部を改正す



平成十五年七月十日～十一日、第二回全地協の全国大会と総会が、秋田県鹿角市「ホテル鹿角」に於いて開催されました。又、大会前日には、全県の会長など前泊者を対象に「指導者研修会」が八幡平の「ふけの湯」で行われ、秋田大学助教授の八巻秀氏より「児童虐待の実態とリーダーとしての対応」題しての講演がありました。翌十日の午前中には場所を「ホテル鹿角」に移し、「気楽にトーク」が行われました。

続く講演では、宗泉寺の長谷川恵光住職が「念すれば花開く」の演題で話され、その内容には、「一つ一つが実感出来、心に響きました。(人間はだれかのために役立っていると思う心があると、誇りを持つて生きていける。)」子どもの本当の幸せとは乳幼児期にどのように愛情を感じつゝ持つて育てられたかが大切である、
「幼児期に聞いた話はいつまでも心に残っている。肉声で子ども達にお話を聞かせることが大切である」又、ゲーム脳の恐怖についても話されて、是非、子育てしているお母さん達にたくさんの情報を見発信して下さい。皆さんの努力の大輪の花が開くように願いますと締めくくられました。

フォーラムでは、四人のパネリスト、主任児童委員、企業の社長、子育て支援グループの代表者、子育て支援センター指導員によりそれぞれの立場から意見が出されました。コーディネーターの家庭づくり県民会議委員の石垣政和さんの巧妙な話術により進められ、今、子育ての現場で何が起きているのか、現状や問題点が挙げられ、そのためには何が必要なのかといった話が展開されました。また秋田県で募集した「子育て感動メッセージ」が読み上げられ、紹介されました。

【大会第二日目】

平成十五年度総会では収支決算報告、事業報告、承認が行われ、誓いの言葉が読み上げられました。又、会場から、年会費の問題や、会長会議の必要性などの意見が出されましたが時間の都合上今後どうぞ



の課題としてブロックでの話し合いなどに委ねられました。続いて、平成十四年度に開催されたブロック研修会の報告が、宮崎県、富山県、宮城県から発表されました。

閉会式では、秋田県地域の阿部会長とお孫さんの手により、次期開催県の大分県地協の高木会長に大会旗が手渡されました。この研修で、たくさんの大変な情報や知識を得、人と人とのつながりの大切さを感じ、又、新たなる意識の改革をしながら、子ども達がすくすくと幸せに育つ地域がつくれるようになつたワークを広げて行きたいと意を新たにしました。

ブロツク別研修会報告

【北海道・東北・関東・甲信越ブロック】

【北海道・東北・関東・甲信越ブロック別研修会報告

去る九月十一・十二日の二日間にわたり、群馬県伊香保町に於きまして平成十五年度北海道・東北・関東・甲信越ブロック研修会が開催されました。

第一日目は開会行事の後、厚生労働省鈴木専門官による「少子化や次世代育成支援対策」等について詳しい説明が行われました。次に「子供を虐待から守るために～未然防止に向けたネットワークづくり～」と題し、高崎経済大学細井雅生教授の講演がありました。

細井先生は「児童虐待」や「予防の大切さ」をとてもわかり易くお話し下さいました。又、育児不安から虐待に至るケースが多い為、地域における子育て支援の重要性や支援のあり方にも言及されました。続くフォーラムは、細井先生・保健師・元児相心理判定員・母ク代表の四人により前半は各々の立場での虐待の認識や思いをお話し頂き、後半は虐待防止に向けて「母クとして私達でできること、期待すること」について熱心な議論が行われました。

これらの話の中で虐待に対処することには高度な専門性が必要とされるので、虐待を生む背景を考え、予防の観点からアプローチする方がよい。又、子育て支援の立場で子育て中の「相談相手や聞き役」になることが大切であるとの結論に達しました。夜の意見交換会では、群馬室内合奏団による演奏が行われました。心地よい弦の音色は、昼間の研修で疲れた頭や心を和ませ、参加者の皆様から大変喜んでいただけました。

第二日目は、前日のフォーラムに続き「虐待防止活動」をテーマに三分科



会にわかれ、具体的な防止策について話しました。各県の子育て支援活動事例や予防に向けての取り組みなど指導者研修会ならではの活発な議論が展開されました。開催県の活動報告は群馬県で最初の母親クラブである堤ヶ岡母親クラブ「つつみオアシス」による影絵「花さき山」の発表があり、幻想的な雰囲気で会場を魅了しました。

今年度は「児童虐待」という重く難しいテーマで大変な面もありましたが、テーマと正面から向き合った結果、母親クラブ活動の原点を見つめ直すことができました。普段行なっている五本の活動が即子育て支援であり、色々な行事により多くの親を誘い込み、「一人ではないよ」というメッセージを送り続けることが如何に大切か、又そのことが虐待予防につながるということを確認し合えたのは大きな収穫でした。

最後に関係各位・ボランティアの皆様のご協力に感謝申し上げます。

【東海・近畿・北陸ブロック】

平成十五年十一月六・七日、兵庫県が兵地連を発足し、全地協に加入させて頂いて初めてブロック研修会を開催し、皆様のご協力のもと無事終えることができました。今年、世界文化遺産登録十周年を迎えた姫路城がある姫路市に皆様をお迎えすることが出来ましたのは、兵庫のスタッフ一同心に残ることだと思います。

会場となりました「ホテルサンシャイン青山」には、一日目約五〇〇名の参加者。【虐待】がテーマのため、会員はもとより、担当行政や児童厚生員および、各地域の民政委員の方々の参加が目立ちました。まず厚生労働省の鈴木雄司氏より、行政説明があり、お話の中で赤ちゃんを理解してもらうこと(育児不安解消の為)を目的とした人形ナースリーベイビーを会場の皆様にだっこ体験させてもらいました。さらに、「明治から変わった」という言葉が心に残りました。

次に、近畿大学名誉教授 花田雅憲氏より『子育てを見直せるか』を演題として、虐待について一番大切なことは、虐待をおこさせない。どう予防するかで、子育てを見直せるかどうかということになり、子どもがかわいいという思いが、何でうまく育たないんだろうという気持ちより大きければ、虐待はうまれない。』と講演をいただきました。

フォーラムでは、「みんなでささえれる小さな命 みんなで育てる大きな未来(みんなで育てる地域の子)」をテーマとし、パネラーに民生委員・児童委員代表の仲井久子氏、子どもセンター代表の本通夫氏、施設代表の吉田隆三氏、児童館代表の有本まゆみ氏、母親クラブ代表



の加藤愛子氏を迎え、パネルディスカッションを行い、コーディネーターの清水勲夫氏は、虐待防止に関わる地域での、あるいはそれぞれの方々の関わりなり取り組みなりの報告を聞きながら、このテーマに添つてそれぞれの意見をまとめて頂き、偉い先生に子育てを教えてもらうのではなく、お互いに弱音を吐く関係を作り、「ホントに大変ね!」と言える関係作りが必要だという結論に達しました。

二日目は「虐待とは」「虐待を見つけたら」「虐待を防ぐには」のテーマで三分科会に別れ話合いをおこないました。研修会の最後には鈴木一光氏より、「子どもたちの命に関わることは警察、虐待を疑つた時は児童相談所、児童館で出来ることはお母さんの気持ちを受け止めること。一緒に見守るのは、母親クラブである。」と総評をいただきました。

二日間の研修を通して「人を緊張させる組織では良い発想はできない。どんな人間を救う。笑顔に勝る化粧はなし!」という言葉が心に残りました。

二日目は、「地域における児童虐待防止活動について」というテーマで、三分科会に別れて討議しました。各分科会をそれぞれ体験や意見も出て、わが子以外でもわが子と見れる環境づくりに心がけ、声かけしたり見守つていける母親クラブセイジが含まれていました。潮谷愛一先生の「虐待がもたらすもの」と題しての講演では、年代別あるいは他国との子育ての違い、子育て方による心の安定状況、そして赤ちゃんの脳に与える影響、力、脳の持続力の為の修練等、又虐待による心の傷と思われる問題行動を、今社会現状を見据えてお話しいただきました。

フォーラムでは、「子どもに夢を、子育てにぬくもりを」のサブタイトルで、各分野の先生方に事例等を通して子ども達を取り巻く状況を学び、クラブの活動として、出来る事は何かを考えさせられました。



【中国・四国・九州ブロック】

天守閣を取り囲む木々も色どり鮮やかに、天候にも恵まれた十一月十三・十四日の二日間、熊本市に於いて「みらい子育てネット指導者研修会」が開催されました。開会の挨拶に始まり、厚生労働省の行政説明では、「母親クラブ」に依せるメッセージが含まれていました。潮谷愛一先生の「虐待がもたらすもの」と題しての講演では、年代別あるいは他国との子育ての違い、子育て方による心の安定状況、そして赤ちゃんの脳に与える影響、力、脳の持続力の為の修練等、又虐待による心の傷と思われる問題行動を、今社会現状を見据えてお話し下さいました。

二日目は、「地域における児童虐待防止活動について」というテーマで、三分科会に別れて討議しました。各分科会をそれぞれ体験や意見も出て、わが子以外でもわが子と見れる環境づくりに心がけ、声かけしたり見守つていける母親クラブセイジが含まれていました。潮谷愛一先生の「虐待がもたらすもの」と題しての講演では、年代別あるいは他国との子育ての違い、子育て方による心の安定状況、そして赤ちゃんの脳に与える影響、力、脳の持続力の為の修練等、又虐待による心の傷と思われる問題行動を、今社会現状を見据えてお話し下さいました。

内容の深い研修会を通して、子育てが独立にならないように、地域みんなの人達が子供達に声をかけ合える様に、母親クラブのさらなる活動の広がりを考えさせた二日間の研修でした。

記 中川 久美子

ト活動報告

北海道・東北ブロック
活動報告

「児童教育に関する活動」

岩谷すこやか育成クラブ

みらい子育てネ

みら
いつもは子どもたちの喧騒さに満ちている児童館が「パシッ」と警策の音が時折り響く不思議な静寂さに包まれる。リーダー研修での座禅のようすである。団体行動のできない子、他人の話を聞けない子、器具を乱暴に扱う子、年を経るごとに各事業の中では、子どもたちに手を焼くことが多くなった。しつけは家庭が基本と思えるが、その養育機能が低下している昨今「地域でその役割を担つていく必要があるのでは」との会員の声からリーダー研修がはじまた。

小学校の各リーダーを対象に、夏休みの一を利用して十数年前より続いている。各テーマでお話しをいただいたら、検討会などを行つて、今年は「ことばの持つ世界」と題して、教育長から一つのことばで深く傷つけられたり励まされたり、時には大きな夢を持つことができたり。「ことばは大きな力を持つと」色々な事例を引用したお話をいただいた。この講話は、例年町長はじめ、町の三役の方々にお願いしている。リーダーとしてのあり方をお話くださったり、子どもたちを大切



つに育てるために町政がどのように係わ
つてゐるかなど、子どもたちに深く理
解してもらうと共に、直接子どもと接
する機会の少ない行政の方々に、子ど
もの考え方を知つていただき少ない
場でもあり、育成クラブの活動を理解
していくだけるという効果もあります。
他には地域の住職さんの座禅指導、
午後からは児童館の各クラブの発表、
ゲームと続く。また、地域で手品を得
意とされる方からの申し出でその方々
がマジックを披露して子どもたちを喜
ばせてくれる。

一日での盛りだくさんなメニューだ
が、地域の方々の協力に支えられ子ど
もたちは話に耳を傾けたりゲームやマ
ジックに興じたり、座禅では「心がス
トーンとした。」という感想をもらし
たり、楽しい一日を過ごす。子どもた
ちの心に一つでも届くものがあればと
願つて活動を開いています。

記
伊藤
直子

さて、東京都杉並区の母親クラブでは「先輩ママの出番です」と題した子育てサポート育成講座（十五年度中全八回）を開催しています。母親クラブ会員をはじめ区内の先輩お母さんが、若いお母さんに寄り添える資質を備えた大人になることを目指す講座です。コミュニケーション・遊び・子育て支援・行政との協働など、様々な角度からの講座が

け、「まちの子をみんなで育てる」意識を地域ぐるみで強化することにも一層尽力したいと考えています。すでに実行している地域も多いようですが、日頃から身近なところでの挨拶運動なども交流の第一歩となるでしょう。

春の入園入学から始まり、季節行事は保育園・幼稚園・学校で様々に工夫されています。お子さんがそこに通園通学していれば見学等もある程度自由に出来ますが、そうでなければ自由にどうわけにはいきません。地域住民が老若男女皆で参加できるのが、児童館・町会等での活動です。子どものための活動に、私たちが積極的に関わることが、無意識のうちに世代間交流と文化交流、文化の継承の仲立ちをすることになっています。各母親クラブ共、地域の様々な行事を計画実行し、また普段の活動にも積極的に参加していますが、母親クラブは、子どもたちと地域、地域と行政を結ぶおねらかで丈夫なパイプですから、こうした活動を自分たちのものだけにせず、他或全本に参加を呼びかけ

世代間交流はいつでも身近なところに
みらい子育ネット東京

「親子及び世代間の交流。 文化活動の紹介」



来年度以降も開催される計画です。年度内の全講座を修了すると、児童館等で協働が必要なときに、母親クラブと共に積極的に関わる人材として活躍していただきます。児童館で実施の乳幼児親子のための事業「ゆうキッズ」とそれを協働する母親クラブ活動を見学し実習する講座では、参加者の皆さんのがエプロンをつけて若い親子の前に立つとそれだけで、子どもだけではなくむしろお母さんのこととを包んであげたいという愛情一杯の母の顔になります。「よく来たね」の声にお母さんたちも安心顔で挨拶を返します。三世代の柔らかな交流が生まれる瞬間です。

東海・近畿・北陸
ブロック活動報告

「事故防止活動の紹介」

福井県地域活動連絡協議会

私達（みらい子育てネットふくい）
福井県地域活動連絡協議会の活動を紹介します。

昭和五十六年設立以来、地域活動（母親クラブ）として親子・世代間の交流文化活動、子育てに関する研修活動を主役とし、子どもの事故防止活動、地域活動に賛同する行政・学校・幼稚園・保育所・児童館等連係活動をその時々の社会ニーズに合わせての活動を展開しています。

特に社会環境の変化や世の中で複雑多様化され、児童・児童達が健やかに遊びの遊び、昔から伝承された遊びになれば親しむ機会も少なくなつてしましました。

公共大型遊園地も、子ども主体で作られるべき物も、大人の思考がなかなか思うにまかせられないのが現実です。しかし親子で楽しむ樂園であつてもそれも良し、子ども同志のふれあう樂園でも良し、それが仲間、友達同志として交流を深め語り合うそんな樂園も大変望ましいと思います。

今年は全国組織活動として、「遊び場の遊具の点検活動－楽しく安全に、遊び場遊具によるケガを防ぐための巡回活動」が展開されました。例年になく冷夏で雨の降る日もありましたが、会員のお母さんお父さんが心良く遊び場遊具の点検に参加して下さいました。

先ず遊具のサビ、耐久度等の点検、砂場の砂の量、犬猫の糞の防止策、ガ

ラス・石ころ等破片の有無など細心の注意と気配りの点検です。「あつ！危ない。滑り台少し傾いていい？」遊具のサビ・色剥げ、それぞれの点検で視点の置きどころで思いもよらない所に危険箇所が見つけられた面もあります。少子高齢社会に育つ一人一人の子ども達が安全な環境の中で健やかに育成され、逞しく翔く子ども達に願いを込めての、子育てに支援する地域活動として事故防止活動遊具遊び場点検の一これまででした。



中国・四国ブロック活動報告

「繊細な子ども達や大人の
クツシヨン役として」

島根県地域組織活動連絡協議会
のぞとクラブ

「地元生まれの私だから他の若い保護者や子どもが分かるから」ということで、地区の子育て担当を受け、まず子ども達や若い保護者、そして祖父母等五年がすぎ、六年目に入り大変ですが幸せです。

当時は、我が子も通っていたように、

児童館で保育部門がありましたが、我が子が卒園と同時に幼稚園は他地区に合併となり本来の児童館となり地区の子育て担当だった私が、児童館の職員として入る事となりました。現在は午前中が赤ちゃん連れのお母さん達、午後は小学校帰りの子供や親子連れの小さな子と、賑やかに接することが出来、すごく嬉しく思っています。地区をあげて、全面的に子育てと子ども達にやさらぎの場として活用しています。現場と地域活動の担当者が同じ事から活動をするにあたり、壁もなくスムーズに色々な活動を平日及び土日に使用出来、子ども達もさまざま夢をもち、「次はこんな事がしたいなあ。」とか、子ども達の意見も良く聞けて、親子の掛橋となる様実行している処です。

記 兼折 美恵子

橋と毎日子ども達やお母さん達と接する中で、お母さん達、そして特に子ども達がすごく気を遣っている様に思えます。お母さんが子どもに、子どもが家の人・友達づき合い・友達の家の人の



九州 ブロック活動報告

「児童教育に関する活動について」

大分県佐伯市つるおか母親クラブ

私たち「つるおか母親クラブ」は、児童クラブ「つるおか子どもの家」を拠点に活動しているクラブです。

私たちの暮らす地域は佐伯市で、大分県で二番目に人口の多い地域です。その為、核家族も多く育児をしていく上で、一人で悩んだり、寂しい想いを抱えている母親たちも少なくない状況でした。そんな人たちの「想いの場」になればとの思いから『トトロの広場』活動を支援しています。就学前の子どもたちを対象に、親子と一緒に遊んだり、歌ったり、時には地域の老人クラブの方と楽しく過ごしたりします。その中でお互いに育児の悩みを相談したりしながら、コミュニケーションを深める事でストレスを解消したり世代の違う人たちと関わりあう事で、楽しい時間を共有するお手伝いができればと思っています。

その他、年に一度一五〇名ほどで家族キャンプを行っています。その中には、中・高生及び青年ボランティアも参加しており、子どもたちをいくつかの班に分け、その中のリーダーになり、いかに子どもたちが楽しく過ごせるか企画をしたり活動してくれています。いろんなタイプの子どもと接していく中で、時に悩んだり助け合つたりしながら、最後に子どもたちに最高の笑顔を残していくボランティア達に私たちも感動します。ボランティアの中には毎年喜んで参加してくれる人たちもいて、子どもの

中にも成長していくリーダーになつて活躍してくれる姿を頼もしく感じています。このつながりが「キャンプを支えているんだなあ」と思います。この二つの活動がこれからもずっと続けて行く事ができればと願つていま

記　御手洗　万里子



関係団体紹介

プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク(P.S.N.)とは?

子どもの心身の成長・発達に必要不可欠な「リスク」に、「遊び」を通じてチャレンジができるような、楽しく安全な遊び場を提供するためには、重大な事故原因である「ハザード」を取り除くことが、保護者を含む遊び場の関係者にとって最も重要な役割です。そこで、プレイグラウンド・セーフティ・ネットワークは、子ども健やかな成長・発達の場としてなくてはならない遊び場の、「遊びの価値」としての「リスク」をコントロールしながら「ハザード」を取り除くために、国内外のノウハウや情報収集すると共に、「リスク」と「ハザード」の考え方を、日本に導入して普及するために設立された非営利組織です。

1995年の設立以来、遊び場の安全対策に関する研究会やセミナーの開催、更に国際遊び場安全会議(1995年、1999年)への招聘などを通じて、数多くの遊び場づくりのデザイナーやメカニカル・維持管理をおこなう地方自治体、また、遊び場の安全対策の取り組んでいる研究者や非営利組織などと人的な情報ネットワークを構築しています。そうした国内外の幅広いネットワークによって集められた、有益なノウハウや情報をもとに、2000年には国内では始めての安全指針である「楽しく安全な遊び場づくりのためのガイドライン」を発表しました。そして、ガイドラインをテキストにした遊び場の安全管理者を養成するため



の講演会、セミナーやワークショップを全国(札幌・仙台・甲府・埼玉・京都・神戸・大津)で実施しながら、自治体職員や保育者などの関係者に、楽しく安全な遊び場づくりに欠かせない、安全対策のノウハウを提供しています。また、2002年に発表された国土交通省の「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」の検討委員会にも参加しており、NHKをはじめとするテレビやラジオなどマスコミ等を通して、遊びの重要性と共に「ハザード」による重大事故を防止するための啓発活動を保護者や利用者に対しても行っています。

トピックス

『母親クラブへの期待』

埼玉県立大学保健医療福祉学部教授
荻須 隆雄

昨今、街区公園（旧称児童公園）や児童遊園等における子どもの遊具による重大事故の問題やその防止のあり方について、再三、テレビや新聞で取りあげられ、社会の関心がもたれています。昭和四十九年に全国母親クラブ連絡協議会を設立し、今日に至っている全国地域活動連絡協議会は、設立当初から地域における遊び場の遊具の点検、遊び場の巡回など、地域の子ども達の事故防止を重要な共通活動のひとつとして掲げ、活動に取り組んできました。全国組織化当時に比べると、子ども達は急速に変化し、また、母親クラブの中心的メンバーである母親達の生活も大きな様変わりをしています。

ところで、平成十三年度に全国の母親クラブを対象に、「遊び場の遊具の点検および事故防止活動に関する調査」実施に委員として加わりました。平成九・十年頃からマスコミで遊び場の遊具による事故防止の問題が幾度か報道されるようになつていきました。昭和五十年代当時のエネルギーッシュな母親クラブの活動を見聞した経験のある私には、全国的な組織をもち、そのうえ、遊び場の遊具の点検等、地域の子ども達の事故防止を全国共通の活動目標に掲げている各母親クラブや各会員は、この問題をどう受け止めているのか、と素朴な疑問を抱きました。また、遊



遊び場の遊具の点検活動は、実際にどのようなに行われているのか、という疑問でした。地域の子どもの事故防止を目的とした遊び場の遊具の点検を共通活動に掲げている親を中心とした全国組織は他に類がないでしょう。母親クラブにとって、遊び場の遊具により幼い命が一瞬にして失われたり、障害を伴う事故に無関心であつてはならないという思いが強く涌いてきました。

平成十四年度に作成した『遊び場点検活動マニュアル』を参考にして、平成十五年七月の第二日曜日から一週間、全国一斉点検活動が実施され、遊具等に大小さまざまな劣化があることが確認されました。今後は、年に2~3回、さらには毎月、一斉点検が行われることを期待しているところです。



■ 東海・近畿・北陸 ブロック大会

開催県（愛知県）

開催期日

平成十六年十月七日（木）～八日（金）
会場：ホテルルブラン王山
名古屋市千種区覚王山通り八一十八

■ 中国・四国・九州 ブロック大会

開催県（佐賀県）

開催期日

平成十六年十月二二八日（木）～二九日（金）

会場：はぐくれ莊
佐賀市天神二一ー一三六

平成十六年度全国大会・ブロック研修会のお知らせ

平成十六年度みらい子育てネット全国大会並びにブロック指導者研修会は、左記のとおりの開催予定となつておりますのでご案内いたします。

■ 地域組織活動指導者 みらい子育てネット全国大会

開催県（大分県）

開催期日

平成十六年七月十五日（木）～十六日（金）
会場：ビーコンプラザ
大分県別府市山の手町十二番一號

■ 北海道・東北・関東・甲信越 ブロック大会

開催県（山形県）

開催期日

平成十六年九月九日（木）～十日（金）

会場：文翔館
山形市旅籠町三一四一五十一